

皆さんのニーズに応える 各種講座に是非ご参加ください！

当センターではボランティア、市民活動、まちづくりなどに役立つ様々な講座、セミナーを企画中です。開催が決定した講座から随時お知らせします。次の講座はコチラ！

各種講座のお申込みはコチラ

～ファシリテーションを行う上での心構えを伝授します～

ファシリテーション心技体

テクニック、スキルと捉えがちな“ファシリテーション”ですが、その前に「心構え」が大切です。ワークショップデザイナーが提案する新しいファシリテーション講座です。

- 日時 9/3(月) 13:30～16:30
- 場所 松阪市市民活動センター
- 講師 ワorkshopデザイナー/ファシリテーター 池山敦さん
- 定員 30名 ※定員になり次第締切 参加費 1,000円



定期的な講習参加で実技を身につけよう！

普通救命講習(修了証あり)

冷静な判断力と対処法を身につけるためには、定期的に講習に参加し、“身体で覚える”ことが大切です。過去に受講歴のある方も是非ご参加ください。

- 日時 9/8(土) 13:00～16:00
- 場所 松阪市市民活動センター
- 講師 消防組合消防本部 講習担当者
- 定員 30名 ※定員になり次第締切 参加費 無料



TEL : 0598-26-0108 (平日10:00～22:00)
 FAX : 0598-25-3803
 E-mail : katsudou@ma.mctv.ne.jp

氏名・住所・連絡先を右記のいずれかの方法でお伝えください。

開催した講座のご報告

「CSR検定」で会社を変える

～万協製薬・松浦社長編～

松浦社長流の検定対策講座。アンケート回答者全員がCSR検定について「意義がある」とお答えいただきました。

8/7 開催



ワードでつくるチラシ講座入門

～“このチラシ”をつくってみよう！～

実際に募集に使ったチラシを題材に講座を実施。申込み締切前に定員に達するなど、需要の多さを感じた講座となりました。

8/10 開催



やさしいヨガのコミュニケーション!

～“ヨガボラ”でまちを笑顔に！～

“身近な人を癒す”ことから始めるボランティアのすすめの講座。講師の温かい雰囲気印象的な講座でした。

8/22 開催



開覧図書三重県一を
私たちと一緒に
私たちに一緒に
目指しませんか? 作るみんなの
書籍の森

当センターは新たに生まれる市民活動団体に活用していただくため書籍リサイクル運動「書籍の森」を実施中です。あなたの本棚に眠る使用済みのNPO書籍を次の世代に役立ててください。

【募集書籍】

ご協力ありがとうございます。引き続き書籍の寄贈を募集中です。NPO、ボランティア、まちづくり、NGO、CSR資料

ちょこつと編集後記

今回から新コーナー「いまさら聞けないあのコトバこのコトバ」が始まりました。市民活動にまつわる言葉で「これってどういう意味?」と疑問のある方はご連絡ください。分かりやすく解説します。[S]

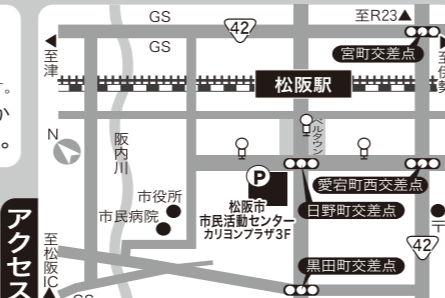
松阪発信！ 市民活動の情報紙 **AROMA** 次号は2012年10月中旬以降の発行予定です。募集・イベント・事業案内など、共有したい情報をお持ちの方は、「アロマ掲載希望」の件名で「タイトル・趣旨・内容・日時・場所・問合せ先」などをご記入の上、松阪市市民活動センターまでE-mail かFAXにて送付してください。次回の原稿締切は2012年9月30日(日)です。 担当/澤

松阪市市民活動センター 〒515-0084 三重県松阪市日野町788 カリヨンプラザ3F 月曜～土曜日/10:00～22:00 松阪駅下車(JR側)、徒歩5分 カリヨンプラザ駐車場あり(屋上) 会議室利用時間に限り無料 ラウンジ利用は2時間まで無料

TEL 0598-25-3801 予約専用 0598-26-0108 FAX 0598-25-3803 E-mail katsudou@ma.mctv.ne.jp

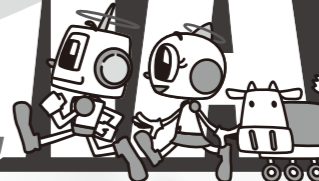
利用	会議室	機材等
	大会議室……机10 椅子30 (600円) 小会議室1…机4 椅子12 (150円) 小会議室2…机6 椅子18 (200円) 小会議室3…机4 椅子12 (150円) 料金は1時間。大小会議室の組み合わせ可。外会議室……机8 椅子24 (400円)	印刷機(紙持込) / コピー機 マイク/プロジェクター 他 会議室・機材等はセンターに団体登録されることで利用可能です。 利用申込 申請書類は窓口でご記入いただくかお電話にて予約後、ご提出ください。

▼ 松阪市市民活動センターホームページ
<http://www.katsudou.com>
 ▼ 市民活動情報サイト(登録団体の情報、会議室の空き情報)
<http://genki365.net/gnkm/customer/matsusaka/>



AROMA

A Resident Of Matsusaka Activity



〒515-0084 三重県松阪市日野町788 カリヨンプラザ3F
 開館 月曜～土曜日/10:00～22:00
 (予約専用)
 TEL 0598-25-3801
 0598-26-0108
 FAX 0598-25-3803
 E-mail katsudou@ma.mctv.ne.jp

～アロマ～ No.42

ちょっと気になる
編集者 “E” の **団体**
 今号は… 松浦武四郎 記念館友の会 さんです

松 浦武四郎(1818～1888)という郷土の偉人をご存じだろうか。幕末の探検家であり、“北海道の名付け親”として知られる人物だ。日本各地を歴訪し、蝦夷地(えぞち：現在の北海道)を6度にわたり踏査。生涯を通じて100点以上の書物を出版した。残された資料からは、考古学、本草学、地理学、民俗学、篆刻、絵画、詩歌などにも造詣が深かったことが読み取れる。実は、その出身地は、松阪市小野江町なのだ。そんな郷土の英雄の功績を讃え、発信し、貴重な資料を保存活用して後世へ伝えようと、平成6年に三雲町(現・松阪市)が武四郎の生家の近くに「松浦武四郎記念館」を開いた。その活動をボランティアで支えている市民活動団体が「松浦武四郎記念館友の会」だ。



会長：飯田秀さん

会 の発足は平成20年。「武四郎ゆかりの北海道では、昭和57年に松浦武四郎研究会が発足しましたが、生誕地の松阪市では草の根レベルでの活動でしかなかった。当時の松浦武四郎記念館の館長の呼びかけで、武四郎講座のメンバーを中心に立ち上げることになりました」と会長を務める飯田秀(いいたまさる)さんは語る。会員47名でスタートし、現在では松阪・津などを中心に114名の会員を持つまでになった。活動内容は、毎年2月に行われる「武四郎まつり」への協力、武四郎の足跡を辿る研修旅行、年4回の会誌の発行、同会の活動写真展示など多岐にわたっている。



年 間を通してもっとも大きな行事は、毎年2月の最終日曜日に松浦武四郎記念館で開催される「武四郎まつり」だ。この祭りでは武四郎と親交の深かったアイヌ民族の文化に焦点をあてている。アイヌ民俗の皆さんを招き「松阪とアイヌの文化交流」をテーマに、アイヌ伝統の踊りやアイヌ文化の体験スペースな

ど、市民へ向けた情報発信も行われている。また、会員自らの見識を広める活動にも積極的だ。年1回、武四郎の足跡を辿る研修旅行も実施している。「武四郎が歩いた場所をめぐり、どんな人物だったか知りたかった」と飯田さん。こうした活動が郷土の偉人への理解を深め、会員同士の親睦の場としても役立っているようだ。

地 域の活動として“エゾヤマザクラ(※1)”を通じたまちづくりにも力を入れている。同会では“北海道千本桜運動(※2)”を実施していた北海道新聞社に依頼し、寄贈いただいた苗木を平成20年から22年にかけて30本を植樹した。北海道との気候や土壌の違いから残念ながら17本は枯れてしまったが、会員の懸命な世話が実り、奇跡的に13本が育った。今では記念館裏の広場と地元小学校の敷地内で見ることができる。「今後も武四郎ゆかりの桜を多くの人に知ってもらい、地域で守っていくことで、まちづくりにもつなげたい」また、「郷土の偉人を知ること、自分のまちに誇りを持つことにもつながる」と飯田さんは語る。武四郎まつりや、毎月開催する武四郎講座など、一般にも開放されているイベントも多い。興味のある方は一度訪ねてみてはいかがだろうか。

- 【※1】エゾヤマザクラとは…北海道に自生する桜で、武四郎が愛した桜として知られる。同会の植樹した桜の開花時期は4月頃。
- 【※2】1997年から2011年にかけて、北海道新聞社、北海道文化放送、道新サービスセンターの3社が、北海道各所にエゾヤマザクラの苗木約1,000本を贈った運動。

松浦武四郎記念館友の会 : TEL 0598-56-3542

報告 登録団体交流会を開催しました



避難訓練に伴い、登録団体の「防災を急便! もしも...松阪」代表の中村様へ、アトピーをもちました。ありがとうございます。



7月7日(土)、「登録団体交流会」を開催しました。この交流会は、普段接する機会の少ない市民活動団体同士の交流の場として毎年開催しています。今年の交流会では初の試みとして「避難訓練」を実施しました。まず、松阪地区消防本部からお招きした講習担当者による心肺蘇生法のデモンストレーション、続いて「当センター利用時に震度7の地震が起こる」という想定で訓練を行いました。センタースタッフも火の元の確認、避難経路の確認と安全な場所への誘導などを実践しました。また、毎年恒例の「団体PRタイム」も実施。参加団体からは「いろんな団体の話が聞けて活動の参考になった」、「防災について考えるきっかけになった」と好評でした。この交流会をきっかけに新しい活動が生まれることに期待したいですね。

報告 松阪市市民活動センター 打ち水大作戦2012 賑やかに開催!



今年で5回目となる「松阪市市民活動センター打ち水大作戦」。昨年同様、自治会連合会、商店街連合会に賛同いただき実施することができました。また、「自分で打ち水します!」という「打ち水人宣言」も201件集まりました。当センターでは7月20日(金)、カリヨンプラザ1階で打ち水を実施しました。この日、当センターで会議のあった自治会連合会の編集委員の皆さんにも参加していただきました。ご協力ありがとうございました。当日は新聞社など多くのメディアにも取材していただき、この取り組みを周知していただきました。「毎年、打ち水大作戦に参加している」という自治会もあり、この取り組みがこの地域にも根付いてきていると感じます。ご協力いただいた皆様、また来年の夏もよろしくお祈りします。



【打ち水大作戦とは】...<http://uchimizu.jp>
東京のNPOが主で実施する環境啓発活動。江戸時代からの知恵「打ち水」で「真夏の温度を2度下げよう」と呼びかけており、全国的に広がりをみせている。打ち水本部は今年で10周年を迎える。

※ご協力いただいたメディアの皆様ありがとうございました。
【事前告知】松阪ケーブルテレビ
【当日取材】中日新聞・夕刊三重・伊勢新聞・アイウェブまつさか

市民活動用語解説コーナー 【Vol.1】 あのコトバ このコトバ

さてさて、いきなり始まりましたこのコーナーでは、日々進化する(?)市民活動に関わりのある「コトバ」をピックアップして解説していくコーナーです。取り上げる言葉の多くは、いわゆる「横文字」が多くなりますが、横文字に対する苦手意識の克服に少しでも貢献できると嬉しいです。

記念すべき第1回のコトバは... ↓ コチラ ↓ ボランティア (Volunteer)

ボランティアの語源はラテン語のVolo(ウオロ: 志願者の意)であるという説が有力です。インターネットなどで調べると説明文がいろいろと出てきますが、分かりやすく言えば「自発的に行う奉仕活動。また、それに関わる人(個人)」を指しています。同じ思いを持ったボランティアが複数人で活動し始めると、「ボランティア団体(グループ)」となります。

ボランティアの語源はラテン語のVolo(ウオロ: 志願者の意)であるという説が有力です。インターネットなどで調べると説明文がいろいろと出てきますが、分かりやすく言えば「自発的に行う奉仕活動。また、それに関わる人(個人)」を指しています。同じ思いを持ったボランティアが複数人で活動し始めると、「ボランティア団体(グループ)」となります。



報告 TRI 夢・街・人づくり 助成金

事前説明会を開催しました



8月3日(金)「TRI夢・街・人づくり助成金」の事前説明会を開催しました。この事業は、松阪市に工場を構える東海ゴム工業(株)と松阪市市民活動センター(指定管理者: NPO法人Mブリッジ)が協働で実施する「まちづくり応援プログラム」です。今まで助成金申請をしたことのない団体にもチャレンジしやすいよう、事前説明会では「申請書の記入例」なども見てもらいました。この取り組みは次年度以降も継続する考えで、「敷居の低い」助成金プログラムを目指しますので、皆様よろしくお祈りします。

報告 チャリティ缶バッジで「鈴の音市」に出店!

8月4日(土)、市民が作る楽市楽座として定着した「鈴の音市」に今年もセンターブースを出店しました。27,000人の来場者で賑わった今年の鈴の音市。センタースタッフも法被姿で街の賑わい作りに協力しました。

また、今年も引き続き「アピールチャレンジ事業(※)」を実施。ブース出店とステージ出演を希望する登録団体4団体に対して支援しました。他にも独自に出店している登録団体も多く、鈴の音市は「市民活動団体のアピールの場」としても定着しているようです。来年も鈴の音市で皆様にお会いできることを楽しみにしています。



今年、市民活動センターPRパネルの展示、各種講座・事業のチラシ配布の他、被災地支援チャリティ企画として「缶バッジ制作体験」の実施と「募金型持ち帰り袋」を設置しました。皆様からいただいた募金の総額は7,193円でした。ご協力感謝します。



※: アピールチャレンジ事業: 登録団体向けのアピール力支援事業。出店までの流れを体験してもらい、アピールする楽しさを学んでもらう。また、次年度以降はこの経験をもとに独自に出店していただき、街の賑わいづくりに貢献してもらおうことを目的としている。

身近なCSRを探して vol.14



これまで培ったノウハウを地域農業の活性化に活用
松阪興産株式会社
【本社】松阪市鎌田町253-5 中川ビル3階
【TEL】0598-51-0211
松阪市鎌田町に本社を構える松阪興産(株)。昭和29年に創業し、砂利・砕石生産販売、コンクリート2次製品製造販売、パソコンのシステム事業などを手がけています。昨年7月より、CSRの一環として農業事業を始めました。このプロジェクトは、同社が大型機械を扱う技術や育苗バイドを製造してきたノウハウを生かし、地域農業を活性化させる生産モデルを作ろうとするもの。「担い手の高齢化や耕作放棄地の増加、農産物価格の低迷など厳しい状況にある地域農業に貢献できれば」と農業事業部長の若山学さん。現在、地元農家100軒弱から全体で25ha以上の農地を預かり、有機・減農薬で安全な米やソバ、トマト、ブルーベリーなどの栽培に取り組んでいます。今後は、収穫した農産物の直売、加工品の製造・販売も行っていく予定です。企業が地域課題に目を向け、独自のノウハウを生かして解決していく事例は、今後もっと増えていくかもしれません。